



【中学校の部】

読んだ本…サイド・トラック
著者…ダイアナ・ハーモンアシャー

理解と協力

ひらた清風中学校3年 阿部 港さん



「障害」と聞いて、どのようなことが思い浮かぶだろう。自分たちとは違った特異なもの。そう考える人もいるかも知れない。

この「サイド・トラック」の主人公ジョセフ・フリードマンも、注意欠陥障害を抱えている。これは、あることに集中しなければならぬときでも、別のことに気をとられ、注意が逸れてしまうというものだ。例えばサッカーをしているときに、近くにいるリスを目で追ってしまったり、マラソン大会のピストル音にパニックになって、スタートがおくれてしまったりする。ジョセフはいつもこのような有様であったため、周囲の生徒からいじめを受けていた。だが、そんな彼にも転機が訪れる。彼の通級する指導教室の担任T先生が、ジョセフを陸上部に誘ったのだ。彼はT先生や友人のヘザー、祖父たちに支えられながら、クロスカントリーの練習や大会を通して、徐々に成長を遂げていく。私はこの物語から、主に二つのことを学んだ。

まず、困難を抱える人々に対する理解と、協力することの大切さだ。ジョセフは注意欠陥障害を抱えていたが、彼を支えようとしてくれる人々は、ジョセフに否定的な感情を向けることがなかった。むしろ彼のためにと、あれこれと配慮しながら行動していた。T先生は、ジョセフの長所が地道な

努力を続けられることだといち早く見抜き、彼を導いた。ヘザーはクラスメイトとして、また同じ陸上部の仲間として、そして友達として、ジョセフの目線で行動しようとした。祖父はジョセフをよく理解し、何かとアドバイスしてくれた。そんな温かい協力者たちがいたからこそ、彼はくじけることなく陸上競技を続け、成長できたのだろう。

私の父も障害を抱えている。父は体が弱く、数え切れないほどの病を抱えている。常時鼻から管を通して酸素を吸入していて、走るなど考えられない。歩いても十歩ほどで息が切れ、しばらく動けなくなる。さらに骨も弱り、以前は、くしゃみをしただけで背骨が数本やられてしまったそうだった。「生きていくのが不思議なくらいだ」とよく言われる。私は、もちろん父の病気について理解しているつもりだが、もともと何かできることはないのだろうかともどかしくなることがしばしばだ。ジョセフを支える人々のように障害を正しく理解し、互いに協力できることを共有しながら、いつか私も、父の力になれたらと思う。

次は努力家のジョセフに学んだ「継続すること」の大切さだ。ジョセフは運動が大の苦手。どんなスポーツでも、いじめっ子に敵うことはなく、トラックを走っても、一周で限界が来たほどだ。だが彼は努力を続ける。もちろんこれもヘザーたちの協力あってのものだが、それでも苦しいことを続けるというのとはなかなか難しい。スポーツ、歌、ダンス、コミュニケーションなど、私にも苦手なものはいくつもある。中でも歌に関しては際だって酷く、発声練習やボイストレーニングなどもやってみたがなかなか成果を出せずにいた。とうとう先生から「これほどやっても身につかないのは初めてだ」と

言われ、懸命に教えて下さる先生を裏切り、虚しくなってしまう。練習も諦めてしまった。私は音域が狭すぎるらしく、学級の仲間が出せる高さの声を出すことができない。皆が普通にできていることがなぜ自分にはだけできないのか。どうして自分にだけできないのか。私はおかしいのかと、ネガティブな考えばかりが頭に浮かび、どうせできないのだ、才能がないのだと逃げていた。そんな私だから、頑張り続けるジョセフの姿をみると、自分が恥ずかしくなるばかりだ。諦めることなくずっとトレーニングを続けていけば音域も広がり、もしかしたら今頃は歌も上手に歌えていたかもしれない。私はジョセフに、もっと自分を信じてみよう、また努力してみようと思わされたのだ。

障害の有無にかかわらず、初めから何でもできてしまう人間はいない。何度も何度も繰り返して練習し、準備し、失敗を重ねながら体得していく。それも、自分自身が会得したいと望む気持ちがあつて、努力を継続できるだけの諦めない心があつて、何より、周囲の理解と協力が得られることで成熟していく。これからもジョセフは、仲間たちと努力を続けていくだろう。自己ベストを更新し続けながら、いつか一位になれたかもしれない。少なくとも、昨日の自分よりも強く、早くなっているに違いない。ジョセフは周囲の理解と協力を得て陸上競技に出会い、走ることを通して、努力すること、成長することの喜びを知った。今度は私の番だ。歌もダンスも、コミュニケーションも、苦手なものなど全て克服してやる。私には、理解して支えてくれる家族や先生が、友人がいる。私も諦めない。昨日よりも今日、今日よりも明日の自分が、より強くなるために…。

むらの話題

地域の行事や話題、できごとを掲載します。
総務課政策情報係までお知らせください。
(☎55-3111)

むらの話題① 災害時の対策をより強化

平田村と株式会社ゼンリンの災害時における地図製品等の供給に関する協定締結式が1月23日、役場で行われました。

この協定により、災害発生時にゼンリンの地図製品を村に提供いただき、迅速な災害対応に活用できることとなります。

澤村村長は「協定の締結は非常に心強い。災害時はご協力を頂き、村民の安全を守りたい」と挨拶しました。



むらの話題② LED防犯灯寄贈 「明るいまわづくり」

(株)バンダイ通信(郡山市)が2月7日、LED防犯灯20基を平田村に寄贈されました。

同日役場で行われた贈呈式には、生田目正男会長と生田目光社長が訪れ、「防犯灯で夜道が少しでも明るくなるように」と澤村村長に目録を手渡されました。澤村村長は「犯罪の無い明るいまわづくりのために使わせていただきます」と感謝の言葉を述べてました。寄贈された防犯灯は、行政区から要望が出ている箇所に設置されます。



左から生田目光社長、生田目正男会長、澤村村長

石川地方生活環境施設組合からのお知らせ

～可燃ごみ 「祝祭日の翌日収集」は行いません～

石川地方生活環境施設組合では、令和元年度～3年度までの3年間、し尿処理施設とごみ焼却施設の改良工事を同時に行っています。工事期間中は、他の組合に依頼してごみ等の一般廃棄物を処分しています。

今年も、ごみの収集体制などを変更したままの対応になりますので、ご不便をおかけしますがご協力をお願いします。

可燃ごみ・粗大ごみ収集の注意点

1、「祝祭日の翌日収集」は行いません

収集日が祝祭日に重なっても翌日収集は行いません。

2、ごみステーションには「6時から8時まで」のごみ排出を順守してください

他の組合に依頼しごみを搬出するため、収集ルートが変わります。場所によってはこれまでより早い時間に収集されますので、必ず8時までにはごみステーションに搬出してください。

3、家庭ごみ・事業所ごみに関わらず「直接搬入」は受付できません

工事期間中の安全確保のため、直接搬入はできません。

○家庭：「ごみカレンダー」を確認し、ごみステーションに排出して下さい。

指定袋に入らない大量のごみや粗大ごみは、下記の「石川地方生活環境施設組合業者協力会」に加盟している業者にお問い合わせのうえご依頼ください。

可燃ごみ(有料) (株)福島アースクリーン ☎55-2928

粗大ごみ(有料) きららクリーンセンター ☎26-7500

○事業所：村内担当の(株)福島アースクリーンにご依頼ください。

*お問い合わせ先：石川地方生活環境施設組合 ☎26-2784・役場住民課 ☎55-3112